

パオちゃん

「わあ、まぶしい。」

生まれたばかりの アフリカゾウの パオちゃんに、ギラギラと たいようが て りつけます。

「よっこいしょ。あれ、立てないな。」

パオちゃんは、まだ、ふらふら して います。

お母さんが、長い はなで やさしく おこして くれました。

まわりでは 十頭の なか間たちが、パオちゃんの たん生を よろこんで くれて います。

「さあ、出ばつだ。水と みどりの 草を もとめて、がんばって 歩くぞ。」

リーダーが、声を かけました。

パオちゃんの 目の 前には、広い 大地が どこまでも つづいて います。

「お母さん、のどが かわいたよ。もう、つかれたよ。」

「がんばるですよ。」

お母さんは、パオちゃんを 心ぱいそうに 見つめました。



カサカサ、カサッ。かれ草の音がして、なか間は いっせいに あたりを見わたしました。

ライオンです。三頭も います。体を ひくく して、ふらふらと 歩く パオちゃんを、じっと 見つめています。

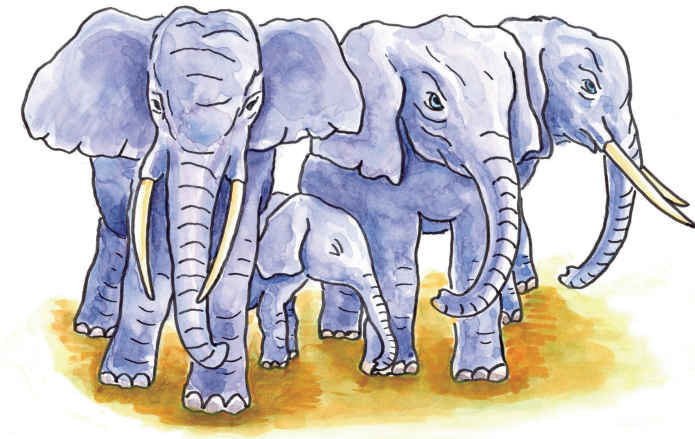
「こわいよ。」

パオちゃんは、ぶるっと ふるえました。

お母さんは、パオちゃんに ぴったりと よりそいました。なか間たちが いっせいに パオちゃんの まわりを とりかこみ、パオちゃんを まもりはじめました。

わかい お兄さんぞうは、木の みきをはなで なぎたおし、強いところを見せました。ライオンは、すごすごと おこうへ さって いきました。

小さな パオちゃんは、みんなの まん中で、また 一生けんめいに 歩きだしました。



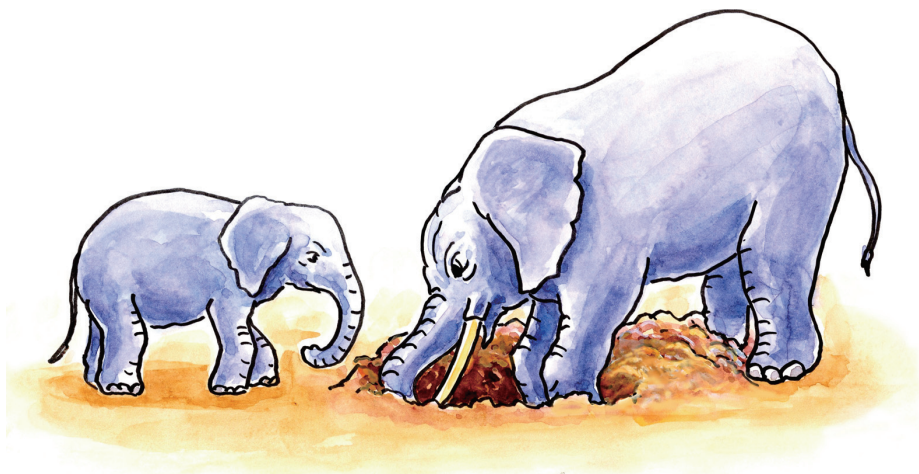
遠く^{とく}に すい牛^{ぎゅう}の おれが 見え^みました。いぼいのししの 親子^{おやこ}が、わっせわっせと
その 方^{ほう}こうに 歩^{ある}いて いきます。水^{みず}の ある 場^ばしょが、近^{ちか}いのかも しれませ
ん。パオちゃんは、うれしく なって かけだしました。リーダーが、きゆうに こ
わい 顔^{かお}に なって、パオちゃんを しっかりつけました。
(ちえっ。)

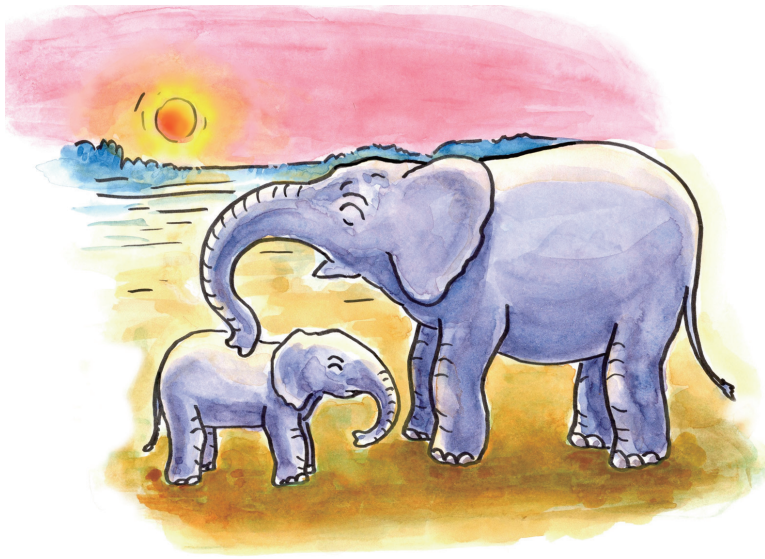
パオちゃんは、おっと ふくれました。

なか間^またちが、とつぜん 土^{つち}を ほりはじめました。土^{つち}の 下^{した}か
ら、水^{みず}が わき出^でて います。パオちゃんも あわてて まねをし
ましたが、なかなか ほれません。お母^{かあ}さんが、心^{しん}ぱいして 自分^{じぶん}
の ほった 水^{みず}を のませようと した 時^{とき}、 大^{おお}きな はなが、
パオちゃんの 足^{あし}もとに あらわれました。

「よく 見^みて。こうやって ほるんだよ。さあ、自分^{じぶん}で やって
ごらん。」

リーダーが、教^{おし}えて くれました。上^{じょう}手^ずに ほれた パオちゃんは、
水^{みず}を たくさん のむことが できました。





大きな 夕日^{ゆうひ}が しずもと して います。お母^{かあ}さんの あたたかい おなかに
よりかかりながら、パオちゃんは お母^{かあ}さんや なか間の^ま 顔^{かお}を 見^みつめました。
「お母^{かあ}さん、ぼく、しあわせ。みんなに、ありがとうって 言^いおうかな？」
お母^{かあ}さんは、にこにここと パオちゃんの せ中^{なか}を なでました。

(橋本 ひろみ 作)